

食に見るオーストラリアの多国籍文化 (シドニー)

18 世紀後半にイギリスの植民地として開拓が始まったオーストラリア。かつては「食」もイギリスの流れを受け、肉と野菜だけといったシンプルなものだった。第二次世界大戦後、多くの移民がオーストラリアへ流れ込み多国籍文化が形成されると、食文化も多様性を見せるようになる。今では多くの都市に世界各国の料理を提供するレストランがある。



美食家に人気のレストランも多く、デザートまで楽しめる

国の歴史が浅く、異文化が集まるオーストラリアには「オーストラリア料理」というものは存在しない。一般的によく食べられるのはステーキやローストビーフといった肉料理だが、オイスターやロブスター、マッドクラブなど、近海で捕れる魚介類を使ったシーフード料理も豊富だ。



シドニーのフードコートでは、さまざまな国の料理が味わえる

初期の移民にイタリア人が多かったため、シドニーやメルボルンにはいたる所にカフェがある。彼らが持ち込んだコーヒー文化の影響を受け、エスプレッソを飲む習慣が根付いたオーストラリアのコーヒーはイタリア式が主流で、毎朝、行きつけのカフェでお気に入りのバリスタが淹れるコーヒーを飲む人も多い。こうした独自の文化の影響から、世界に約 2 万店舗を展開するコーヒーチェーン最大手のスターバックスは、売上の不振で数年前にオーストラリア事業から撤退。直営店の運営権を地元企業に売却した。

また、東ヨーロッパや中近東、東南アジアなどからの移民も多かったことから、スーパーマーケットにはターキッシュブレッドなど外国のパンが普通に並び、フードコートには日本人には馴染みのないレバノンやトルコ、マレーシア料理が必ずと言っていいほどある。主要都市には、中華料理や日本食をはじめ、イタリアン、ベトナム、タイ、インド、ギリシャなどの本格的なレストランも多く、バラエティーに富んだ世界中の料理が気軽に楽しめる。

一方、成人の肥満率が 25% を超えるオーストラリアは、近年は健康志向ブームで、サラダやフルーツジュースの専門店などもよく見かける。オーガニックの食品も人気だ。サプリメント専門店も多く、ビタミンやプロテインを錠剤で補うのは当たり前のことと認知されている。

健康ブームに伴い、ヘルシーと言われる日本食は人気があり、都市部には回転寿司や日本食のレストランがいたる所にある。日本食の種類も刺身や定食、丼もの、うどん、焼肉などが揃う。醤油や味噌、みりんなどの調味料や豆腐は一般的なスーパーマーケットでも扱い、日系やアジア系の食品店では日本米や納豆、海苔、インスタントのカレールーなども手に入る。

最近では日本酒の認知度も高まっている。日本各地の銘柄を揃える居酒屋風レストランでは、オーストラリア人が日本酒を楽しむ姿も見られる。

○英語以外の言語を日常会話

として使用する人口

(単位：千人、%)

	人口	構成比	全人口比
中国語（広東語・北京語等）	651.3	16.6	3.0
インド・アーリア語（ヒンズー・ベンガル語等）	382.8	9.8	1.8
イタリア語	299.8	7.7	1.4
アラビア語	287.2	7.3	1.3
ギリシャ語	252.2	6.4	1.2
ベトナム語	233.4	6.0	1.1
スペイン語	117.5	3.0	0.5
タガログ語（フィリピン）	81.5	2.1	0.4
ドイツ語	80.4	2.1	0.4
韓国語	79.8	2.0	0.4
イラン語（ペルシャ語・ダリー語等）	71.9	1.8	0.3
マケドニア語	68.8	1.8	0.3
アボリジニ語	61.8	1.6	0.3
クロアチア語	61.5	1.6	0.3
トルコ語	59.6	1.5	0.3
フランス語	57.7	1.5	0.3
インドネシア語	55.9	1.4	0.3
セルビア語	55.1	1.4	0.3
ポーランド語	50.7	1.3	0.2
日本語	43.7	1.1	0.2
その他	860.2	22.0	4.0
合計	3912.9	100.0	18.2

※2011年8月時点 (出典：国勢調査・Census 2011)

(シドニー日本商工会議所 事務局長 杉 健太郎)